多職種連携チームに関するもの	**1．多職種連携チーム(Inter Professional Teams)に関する知識と応用**		
	行　動　目　標		例　　示
	1-1	各種専門職の専門性を理解し、多様な視点からの見方について受容し共有できる。	他職種のもつパラダイムと基本的概念・用語を理解している
			多職種の得意なこと、苦手なことを説明できる
	1-2	専門の異なる職種に対し、根拠に基づき意見を述べることができる。	他職種に対し自分の専門性を説明できる
	1-3	チームにおけるゴールをめぐる論点を、整理し共有することに寄与できる。	保健・医療・福祉に共通する価値を説明できる
			コンセンサスと論点を整理できる
総論的・普遍的なもの	**2．マネジメントの知識と技能の応用**		
	行　動　目　標		例　　示
	2-1	組織・チームにおけるリーダー・マネジャーの役割に関わる知識と技能を、説明し応用できる。	優れたリーダー・マネジャーのモデルを知っている
			自己のスタイルを自覚している
			プロジェクト・マネジメントができる
			リーダーとしてビジョンと戦略を語ることができる
	2-2	関わる法人・事業所・チームなどのミッション・ビジョン・戦略の策定に関わり提案ができる。	歴史や到達点・課題を説明できる
			ミッション・ビジョン・長期構想・戦略などを立案できる
			戦略の実行のための組織を設計できる
			短期ゴールと達成に必要な計画を立案できる
			類似業界におけるポジショニング・差別化戦略とその理由を説明できる
	2-3	自身が関わるまたはケース教材における、法人・事業所・チームなどの課題を把握し、解決案を提起できる。	状況を多面的に分析し、課題を整理できる
			問題解決のために集めるべき情報を多面的にあげ、優先順位を示すことができる
			問題解決のための戦略を複数あげることができる
			複数の戦略について、強みと弱み・リスク・倫理上の配慮などをもとに優先順位をつけられる
			関係者に説明し行動を引き起こすことができる
福祉サービスマネジメントに関するもの	**3．ソーシャルワーク/ケアの質マネジメントの知識と応用**		
	行　動　目　標		例　　示
	3-1	人権とソーシャルワークの価値に基づく知識と技術を、説明し、応用できる	ソーシャルワーク（ケース/グループ/コミュニティワーク）について説明できる
			クライエントや地域のニーズと資源をコーディネートできる
			人々やチーム・地域の資源を開発しエンパワメントできる
			利用者の人権やダイバーシティを尊重した倫理的な対応ができる
	3-2	ケアの質マネジメントの知識を、説明し応用できる	ケアの質に関わる要素・影響する因子を説明できる
			ケアの質を高めるシステム・技法について説明できる
			ケアの質や安全のマネジメントの仕組みづくりを計画・導入・運営できる
	3-3	安全・リスクマネジメントの知識を、説明し応用できる	どのようなリスクやインシデンスがどれくらいあるのかを説明できる
			安全・リスクマネジメントのプロセスを説明できる
			事故発生時の対応ができる
総論的・普遍的なもの	**4．人材の能力開発の方法論の知識と応用**		
	行　動　目　標		例　　示
	4-1	人材確保・育成（キャリア・マネジメント）戦略・計画に関わる知識について、説明し提案できる。	ライフステージにあった研修計画を立案しコーディネートできる
			各種研修会で講師やファシリテーターを務められる
			自らの専門職としての技術の蓄積と更新ができる
			スタッフの技術評価と開発を支援できる
	4-2	人事労務管理・メンタルヘルスに関わる知識を、説明	労働基準法の理解と遵守ができる

		し応用できる	人の管理ができる
			職業性ストレスやメンタルヘルスの知識があり応用ができる
	4-3	生涯学習（教育）理論・人間の発達課題に関わる知識を、説明し応用できる	自己および他者の学習ニーズ・課題の設定ができる
			課題達成のための学習・研修計画を立案・実施できる
			自己評価・他者の評価の基準を設定し評価することができる
			スーパーバイズ・メンタリング・コーチングの理論とプロセスを説明できる
			スーパーバイザー・メンター・コーチを持ち、支援を受けたことがある
			スーパーバイザー・メンター・コーチとして支援したことがある

修士レベルの高度専門職業人に求められるもの

５．先行事例やエビデンスの批判的吟味と活用

行　動　目　標		例　　示
5-1	事例あるいは研究における課題を発見・設定し、解決に必要な情報を収集できる。	インターネットの検索機能を使える
		文献データベースを活用できる
5-2	学習内容の妥当性や信頼性について、多角的な視点から批判的に吟味できる	妥当性や信頼性を説明できる
5-3	学習内容について、自分の状況に合わせて柔軟かつ創造的に活用できる。	状況にふさわしいものを選択し、使用できる。

６．客観的事実・根拠を踏まえ、自分の意見を述べることができる表現力・文章作成能力

行　動　目　標		例　　示
6-1	説明を求められた問題について、事実・根拠・理由を示しつつ口頭で意見を述べることができる。	報告会・学会などで発表ができる。
6-2	事実・根拠・理由を示しつつ、求められた形式に沿って文書で表現ができる。	執筆要項に沿った論文を書くことができる。
6-3	予想される批判や疑問について、あらかじめ想定し、応答を準備し、対応できる。	報告会・学会などでの質疑に対応できる